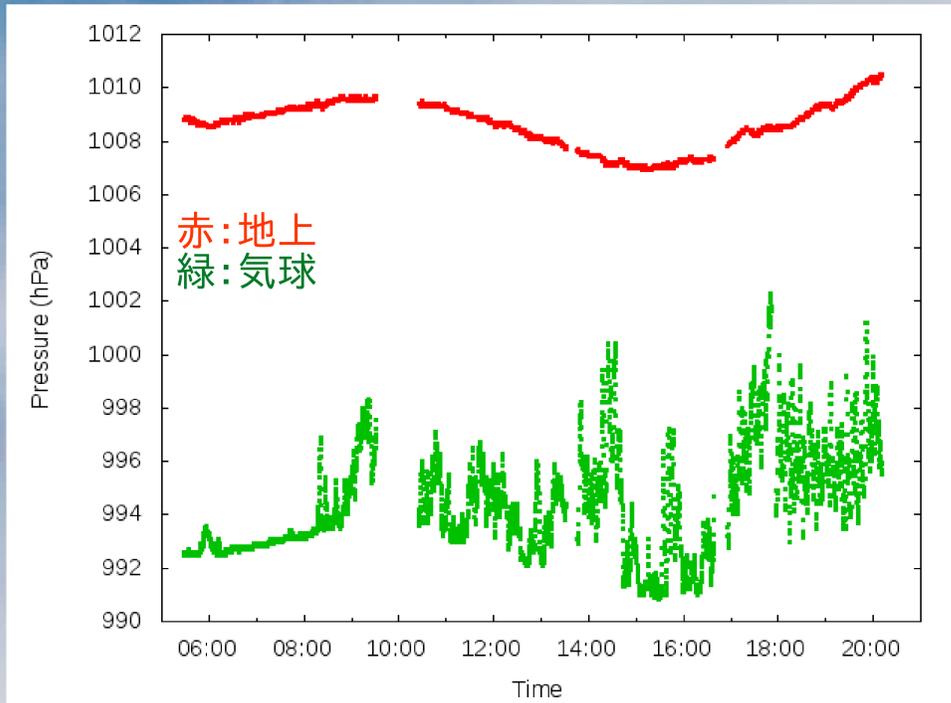


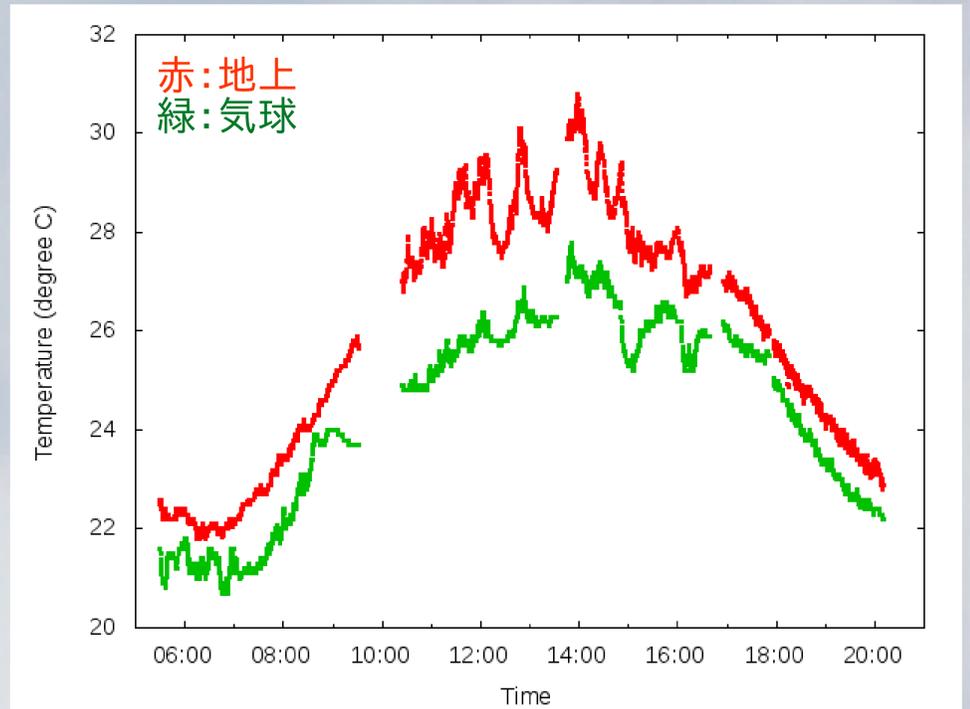
2014年9月11日の観測結果

上空と地表付近の気温・気圧

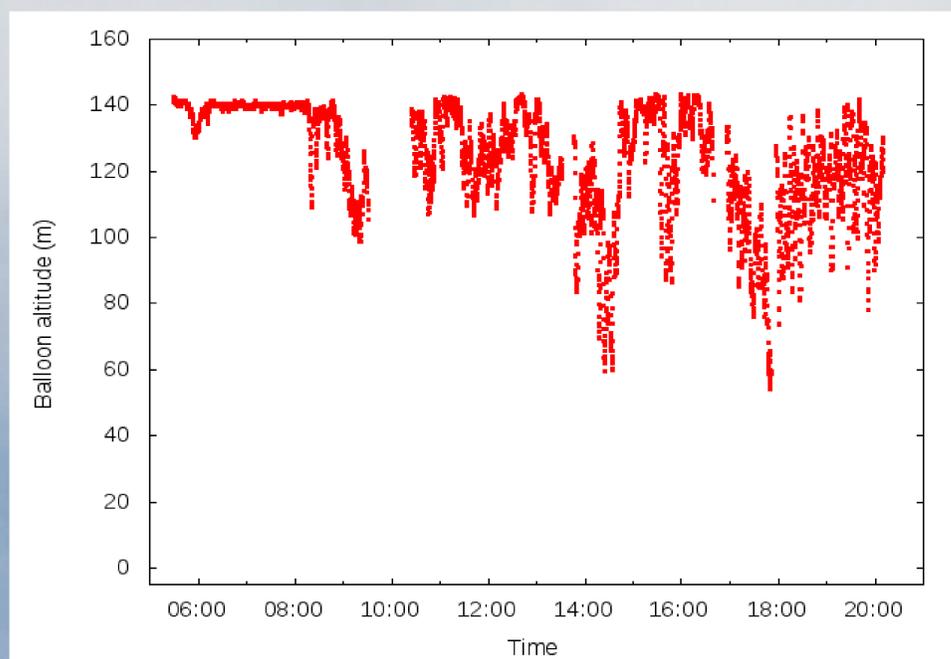
気圧



気温



気球の高度



観測期間

2014/9/11 05:20 ~ 20:10

気球で観測される気圧の値がばらついているのは、気球が風に流され、高度が上下するため。地上と気球の気圧差を使って高度を計算すると、100m~140m程度となった。

地上と気球との温度差は朝夕では1°C程度、昼間では3°C程度であった。

温度減率は(地上と気球の温度差)÷(気球の高度)で計算される値で、空気が1m上昇すると何°C気温が下がるかを示しています。温度減率の値を見ることで、大気の成層度を判定することができます。

温度減率が0.01°C/mより大きい時、大気は不安定な成層をしており、対流が発達しやすい状態にあります。対流が発達すると大気は上下によくかき混ぜられます。

温度減率が0.01°C/m以下の時、(大気中で凝結がなければ)大気は安定な成層をしていて、大気は上下に混ざりにくくなります。この観測結果では9時過ぎまでと16時半以降は安定しているように見えます。

温度減率

